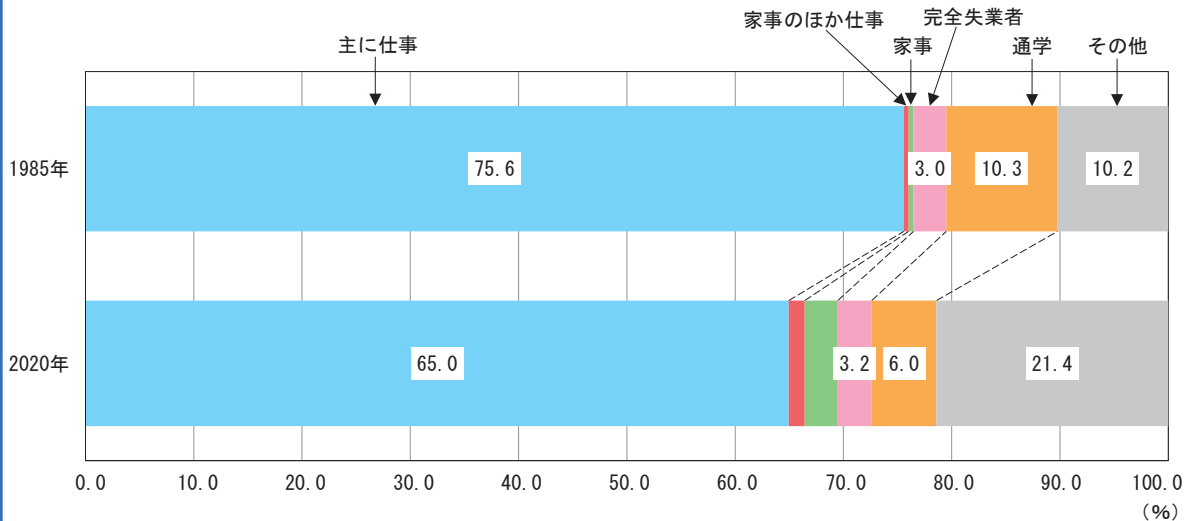


## 2-5 労働 - 働く人々 -

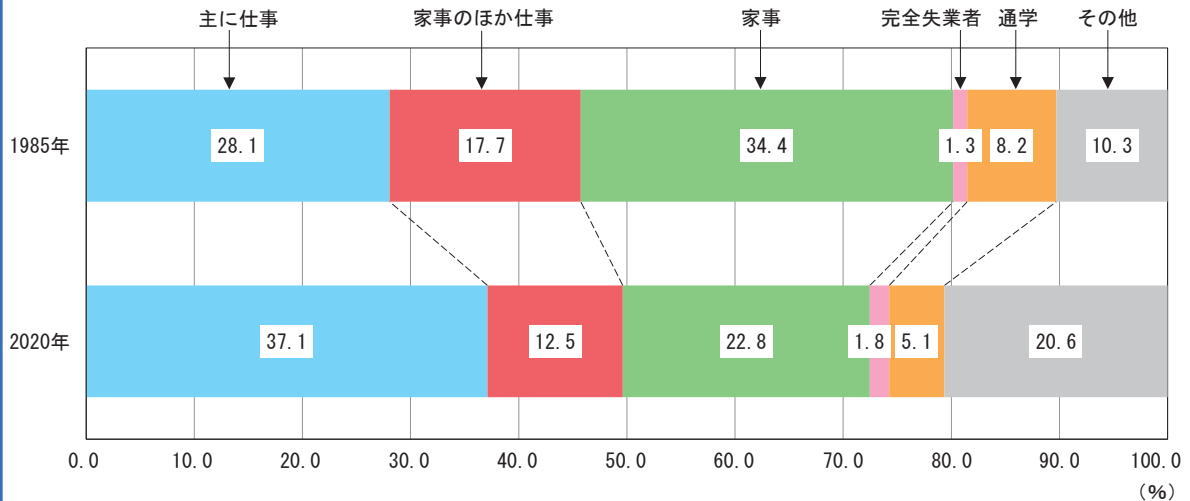
少子高齢化が進む日本。働く人は減っていくのでしょうか？ 一方で、女性が自らの希望に応じて活躍することも期待されています。多様なライフスタイルに合わせた働き方が求められる中、働く人はどう変わってきているか、みてみましょう。

### Q1 仕事をしている人の割合はどれくらい？

#### 「男性」の15歳以上人口の労働力状態別割合 - 全国（1985年、2020年）



#### 「女性」の15歳以上人口の労働力状態別割合 - 全国（1985年、2020年）



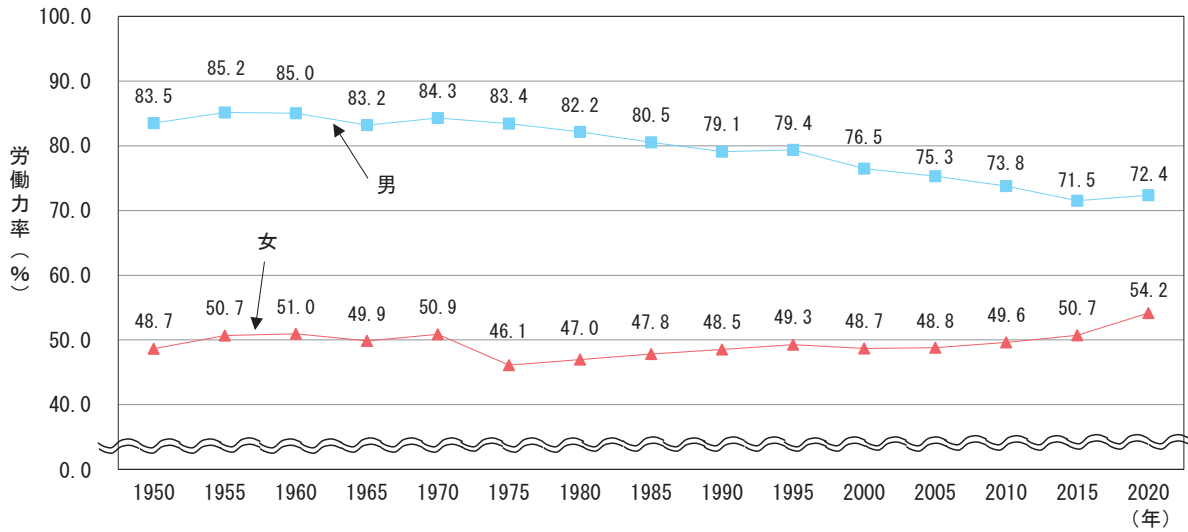
注) 2020年は不詳補完値による。

**A 2020年は、男性は「主に仕事」の割合が65.0%と高いが、1985年に比べてその割合は低下。女性は「主に仕事」の割合が上昇、「家事のほか仕事」及び「家事」の割合が低下  
高齢化の影響もあり、男性・女性共に「その他」の割合が上昇**

※ 1985年に男女雇用機会均等法が成立し、翌1986年4月から施行されました。

## Q2 労働力率を男女別でみると？

男女別 15 歳以上労働力率の推移—全国（1950 年～2020 年）



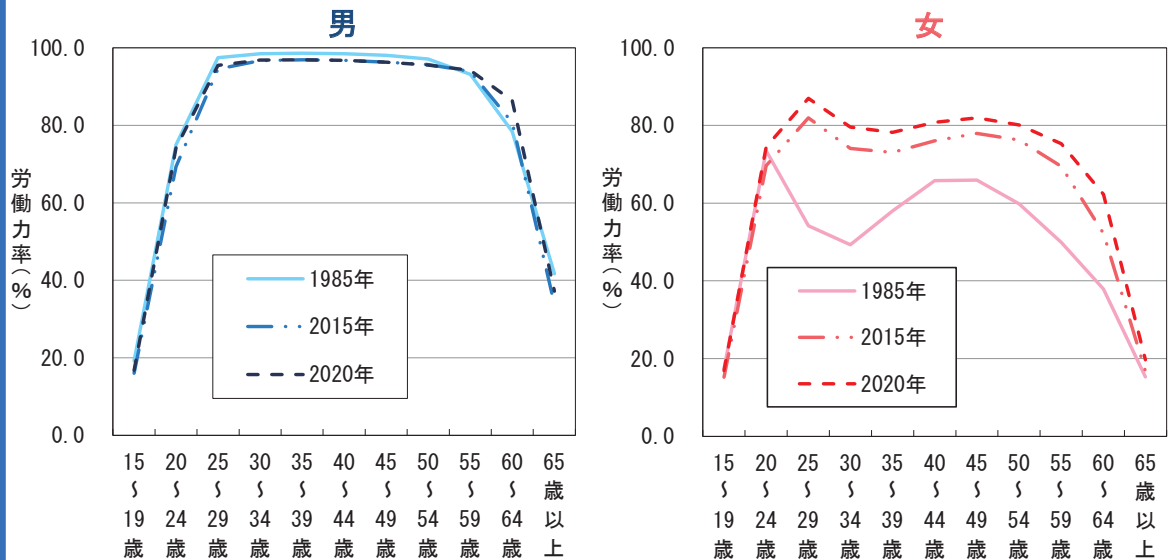
注) 2015年及び2020年は不詳補完値による。

### A 2020 年の労働力率は男性が女性よりも2割程度高い

- ◆ 2020 年の労働力率は 1950 年に比べて男性は低下したが、女性は上昇
- ◆ 2020 年の女性の労働力率は過去最高

## Q3 年齢別に労働力率をみると、どんな形になる？

男女、年齢（5 歳階級）別 15 歳以上労働力率—全国（1985 年、2015 年、2020 年）



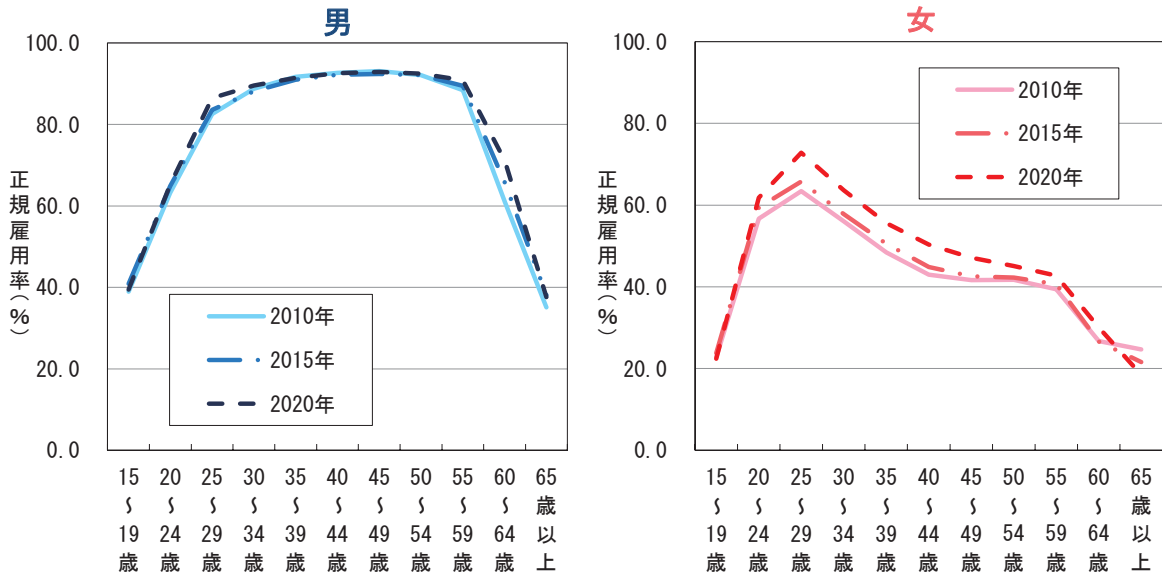
注) 2015 年及び 2020 年は不詳補完値による。

### A 男性の労働力率は台形、女性の労働力率はM字カーブを描くも、近年その底は上昇

- ◆ 男性は、25～59 歳の労働力率が9割を超える
- ◆ 女性は、25～29 歳、40～54 歳の労働力率が、2020 年では8割を超える
- ◆ 女性は 1985 年当時、結婚、育児などにより 20 歳代後半～30 歳代で離職する人が多かったが、近年は働き続ける人が多い

## Q4 年齢別に正規雇用率をみると、どんな形になる？

男女、年齢（5歳階級）別正規雇用率—全国（2010年～2020年）

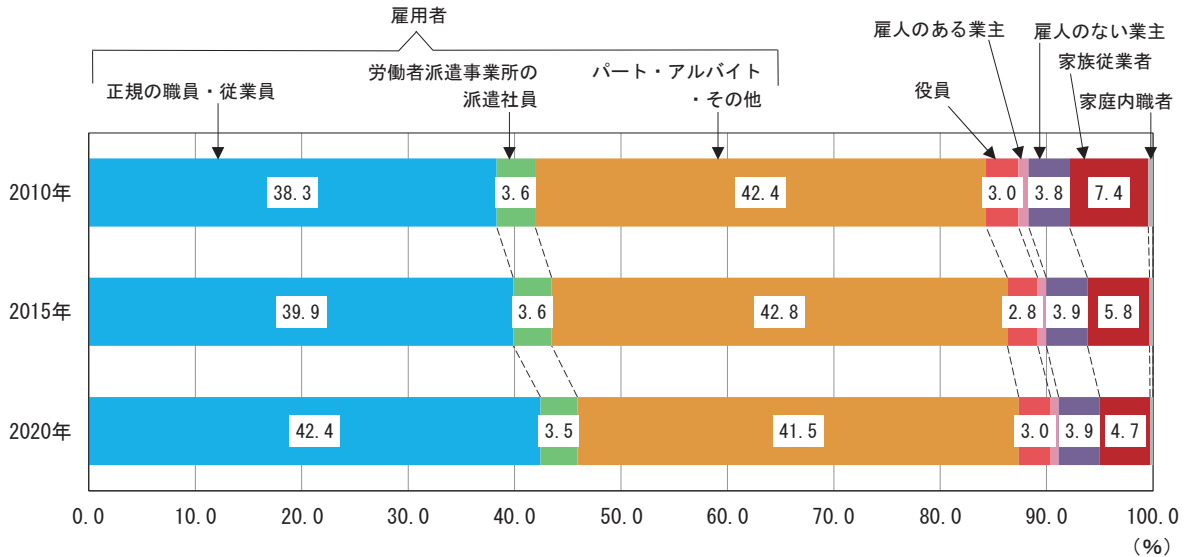


### A 男性の正規雇用率は台形、女性の正規雇用率はL字カーブを描く

- ◆ 女性の正規雇用率は25～29歳をピークに低下傾向

## Q5 女性の働き方は？

女性の15歳以上就業者の従業上の地位別割合の推移—全国（2010年～2020年）



### A 正規の職員・従業員の割合は年々上昇し、2020年は働く女性の42.4%を占めている

- ◆ 2020年は、正規の職員・従業員の割合がパート・アルバイト・その他よりも高くなっている